

第2回小松島市中学校防災会議【報告】

1 日 時 令和7年1月24日（金） 15：00～16：50

2 場 所 小松島南中学校 第1理科室（4F）

3 参加者 市内中学校・県立学校（希望校）・小学校（希望校）
市危機管理部危機管理政策課・市消防本部消防課・小松島警察署警備課
小松島市自主防災連合会・各中学校生徒代表
徳島大学環境防災センター・協力者（東日本大震災語り部 宮本 萌さん他）

4 参加者感想

＜東日本大震災語り部 宮本 萌さんによるお話しの感想＞

（関係機関等）

○被災後のリアルな体験をお聞きできて、個人的に大変参考になりました。

○想像を絶する災害の中にあっても冷静に、そして人や地域のために自分が出来ることを最大限努力されたことに感銘を受けました。

（学校関係）

○ 宮本萌さんのお話を聞いて、震災後の過酷な状況とそこでの人々の強さ、そして防災の大切さを強く感じました。特に、街全体が水浸しになった光景は、想像するだけで胸が痛みました。その中で、安否確認ができない状況の怖さや、不安が募る気持ちがどれほどだったか、言葉では表せないほどの辛さだったと思います。また避難後の生活の大変さや、震災から学び、今後に備える重要性を強調していた点も印象的でした。特に、泥水への対応で、ビニール袋を足に履くというアイディアが非常に実用的で驚きました。自分たちができる準備や対策をしっかりと考えることが、今後の災害時にどれほど役立つかを改めて実感しました。

○今回の話を聞いて、私たち一人一人が防災への意識を持ち、備えをしておくことの重要性を再確認できました。震災の厳しい現実とともに、希望を持って前を向いて生きることの大切さを感じ、防災の意識を高め、日常生活の中で準備していきたいと思いました。お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。

○児童・生徒だけでなく、我々教職員も実体験を聞くことは非常に大切だと感じた。また、その後のグループ協議の内容とも重なる点があるお話であったことが良かった。

○来たるべき日のための備えは、当然必要ですが、想定できることすべてに十分な備えができるだろうかと不安が積もるばかりです。そのために、常日頃からの研修を深め、情報収集に努めなければならないと思います。

（生徒）

○震災直後以外も大変なことがたくさんあるんだなと思った。普段から言われている「津波てんでんこ」や「おはしも」、避難場所の確認などは本当に大切だなと改めて感じた。

○不安や疲労がある中、自身で行動することの大切さがよく分かった。

＜グループ協議の感想＞

（関係機関等）

○時間の関係上、こちらから一方的にお話しするだけになってしまいましたが、貴重なご意見もお聞きすることもできたので、大変有意義でありました。

○松中、南中の生徒さんの防災に対する意識が高く、非常に頼もしく感じました。

○地域での訓練などにも多くの生徒さんに参加してもらえるよう工夫をしてみたいと思います。

（学校関係）

○小松島中学校の防災会議に参加して、災害に備える重要性を再認識しました。特に印象に残ったのは、避難訓練や地域との連携の大切さについて話し合った点です。実際に災害が起きた際に何をすべきか、具体的な行動プランを学べたことが大きな収穫でした。また、地域の防災活動と学校が協力して行うことの重要性が強調されており、今後は地域と連携した防災訓練の実施がさらに必要だと感じました。今後もこのような会議が続くことで、さらに安全な環境が整備されていくことを期待しています。

○各関係機関との対話で共通して感じた課題は「地域住民の危機意識（の低さ）」である。

「自分の身は自分で守る（自助）」の大前提として、「危機意識」は非常に重要である。市としてしっかりと把握する必要もあり、様々な取組はそこから出発すべきだとも感じる。

○各関係機関からの専門的な話を聞くことによって、知識がアップロードできました。グループでの短時間の協議のため、深くは話せませんでしたが、有意義な時間となりました。

（生徒）

○食器棚のロックぐらいいはした方がいいなと思った。「100円で買えるもので命をなくしたら馬鹿らしい。」と聞いて、本当に納得したので、身近なものでできる対策はやっていきたいと思った。授業の科目として「防災」というものをつくれればいいのと思った。

5 来年度の防災会議の開催方法・話し合いの内容へのアイデア

（関係機関等）

○過去2回の開催方法で良いと思います。

○中学校は2校で連携を取りやすいですが、各小学校はどう行動するのか、この会議での位置付けがよく分かりません。

○市教委にも入ってもらって検討してみてもどうでしょうか？

（学校関係）

○上述した「地域住民の危機意識」向上には、学校の教育活動が果たす役割は大きい。（すでに実践してされているかもしれないが、）家庭や地域を巻き込んだ防災学習の展開を検討しても良いかと思う。例えば、「各家庭の避難所を家族で話し合って提出する」「家庭で防災リュックを作る」「地域の避難訓練に参加する」などは、全ての学校で取り組むことができるのではないだろうか。

○体育館や各教室を活用したワークショップ型で、第1回は教職員。第2回は生徒のように拡大しては、どうでしょうか。負担が増え、持続可能ではないかも知れませんが。

（生徒）

○話し合いの時間をもう少し長くしても良いと思う。